

伝 勅使塚古墳の三角縁神獣鏡



でん ちやくしづかこふんのさんかくぶちしんじゅうきょう

文化財愛護シンボルマーク

名称	三角縁神獣鏡	所在地	加古川市平岡町新在家 1224-7
別称	三角縁獣文帯三神三獣鏡		加古川総合文化センター博物館
数量	1面	所有者	加古川市教育委員会
寸法	径 22.0cm	指定	加古川市指定文化財
重量	825g	指定分類	考古資料
材質	青銅製	指定名称	三角縁神獣鏡
時代	古墳時代前期 4世紀	指定年月日	平成2(1990)年10月11日



三角縁神獣鏡 (伝 勅使塚古墳)

この考古資料は、^{ちやくしづか}勅使塚古墳で採集されたといわれている古墳時代前期の^{せいとうきよう}青銅鏡です。

勅使塚古墳は、^{ひおかやま}日岡山古墳群を構成する古墳のひとつで、全長約54.5mの^{ぜんぽうこうえんふん}前方後円墳です。発掘調査が行われていないため、^{まいぞう}埋葬施設や^{ふくぞうひん}副葬品などの詳細はわかりませんが、昭和44(1969)年に後円部頂上の^{さんかくおつか}落葉の上で、^{さんかくしづか}三角縁神獸鏡1面が発見されました。この鏡は、勅使塚古墳の西約300mに位置する^{みなみおつか}南大塚古墳から出土したものが、何らかの理由で移動した後に、勅使塚古墳で発見された可能性が指摘されていますが、詳細はわかりません。

青銅鏡とは、銅に^{すず}錫や^{なまり}鉛などを加えた合金を高温で溶かし、^{いがた}鑄型に流しこんで製作した鏡のことで、多種多様なものが存在します。このうち、三角縁神獸鏡は、断面が三角形の縁をもつ大型の神獸鏡で、古墳時代前期の古墳から出土することが多いものです。

三角縁神獸鏡には、中国製(^{はくさい}舶載鏡)と日本製(^{ほうせい}仿製鏡)のものがあります。その当初は中国の王朝から入手していたものを、後に日本で製作するようになったと考えられており、基本的には舶載鏡が古く、仿製鏡が新しいと考えられています。

また、三角縁神獸鏡には、同じ鑄型あるいは原型によって製作されたもの(^{どうはん}同範鏡・^{どうけい}同型鏡)が多く存在し、その分布状況から、ヤマト政権が^{しゆちよう}地域首長に配布した貴重な器物と考えられています。

伝勅使塚古墳出土の三角縁神獸鏡は、^{きようはい}鏡背に表現された図像や文様、またこれらの組合せから、三角縁獸文帯三神三獸鏡とも呼ばれています。この鏡は、仿製鏡と考えられており、同範鏡が福岡県糸島市の^{いきさんちようしづか}一貴山銚子塚古墳から出土しています。

このように、この鏡は、出土場所などがはっきりとしませんが、同じ日岡山古墳群の^{ひがしくるまづか}東車塚古墳から

出土した三角縁神獸鏡などとともに、古墳時代前期における加古川下流域を考えるうえで、たいへん貴重なものです。

(文、写真、計測/平尾)

●参考文献

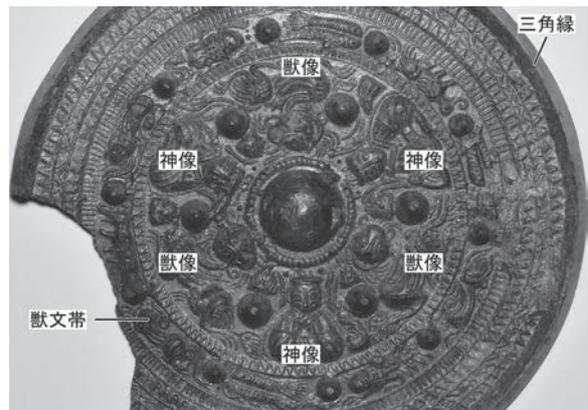
「勅使塚古墳・狐塚古墳」西谷眞治、「南大塚古墳」高野政昭(『加古川市史』第四巻史料編I 加古川市、1996年)

『考古資料大観』第5巻 車崎正彦編 小学館(2002年)
『三角縁神獸鏡の研究』福永伸哉 大阪大学出版会(2005年)

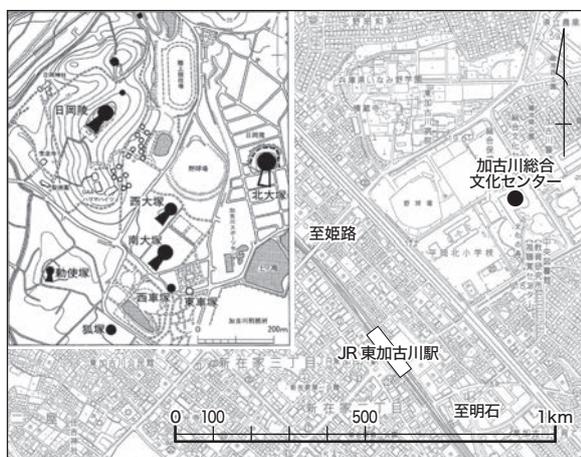
『副葬品の型式と編年』古墳時代の考古学4 一瀬和夫ほか編 同成社(2013年)

●キーワード

古墳、前方後円墳、日岡山古墳群、勅使塚古墳、南大塚古墳、青銅鏡、三角縁神獸鏡、三角縁獸文帯三神三獸鏡、舶載鏡、仿製鏡、同範鏡、同型鏡、一貴山銚子塚古墳



伝 勅使塚古墳出土三角縁神獸鏡の各部の名称



日岡山古墳群分布図及び展示場所

● 出土地/加古川市加古川町大野(不詳)

● 所在地/加古川市平岡町新在家1224-7
(保管場所)加古川総合文化センター博物館

● 交通/JR神戸線「東加古川」駅から北へ徒歩10分
車は加古川バイパス「加古川東ランプ」から北東へ1km